

WEEKLY SIGNAL

平成30年6月22日(金) 1428号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	6/25(月)	6/26(火)	6/27(水)	6/28(木)	6/29(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	△100	△1,000	△1,000	△1,000	△100
財政他	+6,000	+2,000	△12,000	+3,000	+400
資金需給	+5,900	+1,000	△13,000	+2,000	+300
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M)		国債発行(20Y)		
オペ期日	共通担保(本店) CP等買入 社債等買入 国債補充供給	△1,500 △500 △200 +900			
オペスタート	共通担保(全店) 国債買入 社債等買入	+1,300 +9,900 +1,800			
(日本)	金融政策決定会合における 主な意見 (6月14,15日分、日銀)	企業向けサービス価格指数 (5月、日銀)	資金循環統計 (速報、1-3月期、日銀)		東京CPI(6月) 有効求人倍率(5月) 失業率(5月) 鉱工業生産(5月)
(海外)	米シカゴ連銀全米活動指数 (5月) 米新築住宅販売件数(5月)	米アトランタ連銀総裁が講演 米ダラス連銀総裁が講演 米消費者信頼感指数(6月)	米ボストン連銀総裁が講演 米耐久財受注(5月) ユーロ圏マネーサプライ	米FRBが包括的資本分析(CCAR) の結果を公表 米GDP(1-3月、確定値) 米新規失業保険申請件数 (23日終了週) EU首脳会議(ブリュッセル、29日まで) ユーロ圏景況感指数	米個人支出・所得(5月) 米ミシガン大学消費者マインド指数 (6月、確定値) ユーロ圏CPI(6月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初380兆700億円から始まり、国庫短期証券・国債買入オペや、国債大量償還を主因に、21日には393兆2,800億円まで増加した。その後は、国債発行により残高は減少し、391兆3,100億円を越えた。無担保コールON物は、新積期初日となった週初から資金調達意欲が弱く、△0.080%台での出合も散見される軟調な地合が、週を通して続いた。同加重平均金利は、△0.075%~△0.069%で推移した。足許の弱含む動きを受けて、ターム物も軟調な地合となり、1W物において△0.080%~△0.070%の水準で出合が見られた。18日に実施された国庫短期証券買入オペのオファー額は7,500億円と、前回オファー分(6月11日、オファー額1兆2,500億円、応札倍率3.38倍)から5,000億円減額された。応札倍率は3.45倍となり、前回対比で上昇する結果となった。来週の主な予定は、国内では日銀による金融政策決定会合における主な意見(6月14,15日分)の公表(25日)、や有効求人倍率(5月)、失業率(5月)の公表(29日)などがあり、海外ではA18年次総会(25,26日)、米GDP(1-3月、確定値)の公表(28日)、ユーロ圏CPI(6月、速報値)の公表(29日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.120
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約9,000億円で、週間償還総額(約7,600億円)の発行から増加した。5・10日発行やその他金融の大型発行案件が重なり、発行超となった。週末の発行市場残高は、17兆6,100億円程度と前週末(約17兆4,900億円)より増加。発行レートは、引き続き一部の希少銘柄については強めの札が見られたが、概ねマイナス~0%近辺の出合いとなった。来週の償還総額は、期末日の大量償還(約2兆4,300億円)を含み3兆6,200億円となっている。今月末は四半期決算に当たる為、期日償還案件が多く月末残は大幅減少となる見込みである。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺の出合いであろう。26日には、CP等買入オペが2,500億円程度オファーされる予定である。

<TDB>

19日に行われた1Y765回債は最高落札レート△0.1268%(前回債△0.1371%)、平均落札レート△0.1298%(同△0.1391%)と前回債からマイナス幅を縮小した。一方、22日に行われた3M766回債は最高落札レート△0.1288%(前回債△0.1209%)、平均落札レート△0.1324%(同△0.1257%)と前回債からマイナス幅を拡大している。週末のセカンダリー市場は、新発3M・6Mが△0.135%、新発1Yが△0.133%の出合。いずれも入札水準からややレートは低下したものの、大きな動きは見られなかった。来週は29日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGCは週初△0.105%~△0.11%から始まり、週央にかけては△0.12%近辺まで小幅低下。週末は短国3Mの発行日であったが、レートが上昇する展開とはならず△0.12%~△0.125%が出合いの中心となった。SC取引では5年135回債のbidが多く、週初は△0.40%前半ば~後半。入札日前日にかけて△0.30%前半半~△0.40%近辺の出合いが続いた。他2年386・387・388回債、5年133・134・135回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350回債、20年162・163・164回債、30年57・58回債、40年9・10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。